

第4回 持続可能な交通安全施設等の整備の在り方に関する懇話会 議事概要

1 開催日時

令和2年2月14日（金） 15:00～17:00

2 開催場所

兵庫県警察本部別館902会議室

3 構成員等

(1) 構成員

神戸大学名誉教授 小谷通泰（座長）

神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻准教授 織田澤利守

兵庫県トラック協会参事 村尾芳和

兵庫県交通安全協会常務理事 中林好弘

兵庫県教育委員会事務局体育保健課主任指導主事兼主幹 岩木秀諭

兵庫県企画県民部ビジョン局ビジョン課長 木南晴太

兵庫県県土整備部土木局道路保全課長 山田弘（代理同課主幹 津田知宏）

神戸市都市局計画部公共交通課交通支援担当課長 畑田典子

(2) 事務局

兵庫県警察本部交通部交通規制課

4 議事進行

(1) 開会

※事務局より開会を宣言

(2) 第3回懇話会の議事概要について

※事務局より第3回懇話会の議事概要について説明を実施し、構成員から県警ホームページへの掲載について承認を得た。

(3) 議題

ア 事務局等説明

持続可能な交通安全施設等の整備の在り方に関する懇話会報告書（案）の策定について

イ 各構成員からの主な意見

- ・ 非常によくまとまった資料になっており、読みやすく、分かりやすい資料だと思う。グラフの配置を工夫し文章を校正すれば、更に見やすくなるのではないか。
- ・ 死者数のグラフが平成30年までの記載になっているが、令和元年も公表されているので反映してはどうか。
- ・ 和暦と西暦が混在しているので統一してはどうか。
- ・ 老朽化対策として、平成29年度から年度ごとに別枠で予算措置が取られて

いるが今後も継続して確保できるのか。

- ・ 信号制御機の新設・撤去数の推移は図化されているが、更新数についても、最近の数値を可能な限り推計値も含めて図示できないか。そうすれば、更新数の多さが理解しやすくなる。
- ・ 総数管理という言葉が一般の人には分かりにくいのではないか。
- ・ 総数管理といった考え方が必要だということをもう少しストレートに表現してはどうか。信号機を増やすことが難しくなるので、できるだけ必要性を考えた上で減らしていった方が良いという意味を表現した言葉だと思う。
- ・ 総数管理には、単年度でその場その場で整備を行うということではないという意味合いがある。
- ・ 必要性が低下した信号機について撤去を検討することも重要とあるが、提言であるので原則として撤去の検討を進めるとした方が良いのではないか。
- ・ 信号機撤去の際に配慮すべきこととして、地域住民と十分に協議を行ない合意を得ることが不可欠と表現しているが、できるだけ理解を得られるように丁寧に説明するという表現のほうが良いのではないか。自治会等の力が低下している現状では、合意形成を図れないところもあるのではないか。
- ・ 道路管理者による対策が有効であるという表現しているが、場所によって有効な対策かどうかは変わってくるので、対策が考えられるという表現にしてはどうか。また、対策の実施を対策の検討実施にしてはどうか。
- ・ ラウンドアバウトについて、通常の交差点と比較して広い用地が必要である点、適用可能な交通量に上限がある点、障がい者の方にとってはデメリットにもなりうるという点も記載した方が良いのではないか。
- ・ 当分の間は通常の車と自動運転車が混じって走る状態が続くので、信号機がなくて自動運転車だけが走っている状態を想像して、提案を行うことは難しい。
- ・ 報告書の構成について、信号機に絞って記述しているが、信号機の影響の大きさを考えると合理的であり、また最後で、提案した内容は交通安全施設全般の整備についても当てはまるとしているのも良いと思う。

(4) 閉会

※事務局より、以後の報告書等の最終的な取りまとめを座長に一任することについて、構成員から承認を得て懇話会を終了した。

以上